

## 「掲示物」

12月に入りクリスマスが近づいてきたある日、小学部の廊下に掲示してあるクリスマスツリーが目に入りました。きれいな台紙の上にクリスマスツリーを形取った色画用紙がはられ、「クリスマスツリーをことばでかざってね」と書かれてありました。そして左下に付箋が準備されていました。子どもたちや先生方は、思い思いに「さんたんさん」「肉」「おもちゃ」「クリスマスプレゼント」「キリストのたん生日」など、付箋に書いて貼ってありました。

クリスマスツリーが貼ってある場所は、小学部教室に向かうのに必ず通る場所で、自ずと目が行くところにありました。うれしくなった私はこのクリスマスツリーを撮影しました。撮影した日から数日が経ち、クリスマスツリーはどうなっているかわくわくしながら見に行きました。結果はというと、付箋の枚数は増えていました。子どもたちは友だちや先生方が書いた付箋を読み、クリスマスへのイメージが増大して、更に付箋に書いて貼ったのではないかと思います。

このように、自然とことばに関心が向かうよう、本校の教職員は様々な仕掛けを展開しています。掲示物はその重要なアイテムの一つであると思います。

ことばでたくさん飾られたクリスマスツリーを見て、自分がはじめて聾学校に勤め始めた頃を思い出しました。

先輩教員から「聾学校では板書や掲示物が大切で、学級に掲示してあるものを見れば、その先生の聴覚障がい教育の専門性がみてとれる。」と言われました。

その先輩のことばを受け、教育相談の部屋、幼稚部、小学部、中学部の各教室を見て回りました。それぞれの発達段階に応じて、掲示されている内容に違いがあるものの、子どもたちが反復して見て、ことばの概念を獲得できるようにとの思いがいっぱい詰まった工夫された掲示物がたくさんありました。

幼稚部では、やさしい表情の絵が多用され、小学部や中学部は、学習したことが見えている私も手に取るように理解できる掲示物でした。

その当時、自分は中学部に所属しておりましたが、その後は指導場面などにおいて、板書や掲示物に留意して授業を行いました。おかげで現在では、様々な学校を訪問させてもらって、板書や掲示物がどうなっているかが気になり、素晴らしい掲示に出会ったときは、自分もこの掲示を使ってみたいとそのアイデアなどを密かに自分の中に保存して帰るようにしています。

専門性は、難しいことを行うというよりは、日々子どもたちとのかかわりの中で、さりげなく自然とねらいが達成できるよう、配慮していくことではないかと思う今日この頃です。

